

# 近江八幡市社会福祉協議会「令和6年能登半島地震」 被災地支援ボランティアバス報告

令和6年6月11日(火)～12日(水) 石川県七尾市



## 社会福祉法人近江八幡市社会福祉協議会



この活動は、赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」(ボラサポ)の助成金をいただき実施しました。



# ボランティアバスの概要

## 目的

災害ボランティア活動を通じて、被災された方の気持ちに寄り添い、一日も早い復興をめざして取り組むものとする。また、活動を通じて災害や防災に対する意識づけや近江八幡市における災害ボランティアセンターの体制づくりを活かしていく。

## 参加者

一般ボランティア9名、市社協職員9名 計18名

## 活動内容

石川県七尾市災害ボランティアセンターに登録しグループになって、被災されたお家や自治会館などに訪問し、使えなくなった家具など(災害廃棄物)を運び出し、廃棄物処理所に運び出すなどの作業を実施

# スケジュール(1日目)



## ◆15:30出発式

ひまわり館に集合し、自己紹介および概要確認を行い、出発の準備を行い、バスに乗り込み。

## ◆16:00出発

職員の見送りを受け、出発。車内で、4月に七尾市災害ボランティアセンターの運営支援に入った職員より報告を実施。

## ◆20:00宿泊先到着(富山県高岡市)

# スケジュール(2日目①)



6/2 日付	6/2 到達	No.	エリア 内容	Vol 人数	当日募集 人数	活動 内容	送迎(人) / 活動(廃棄物)	備考 (近所等)	乗車 人数	1-9 区別	取組 内容	担当 氏名	備考
1	1-1	1	サキヤ	10	3	7	...	...	...	...	...	...	...
2	2-1	2	...	2	1	1	...	...	...	...	...	...	...
3	3-1	3	...	13	3	10	...	...	...	...	...	...	...
4	4-1	4	...	6	3	3	...	...	...	...	...	...	...
5	5-1	5	...	13	3	10	...	...	...	...	...	...	...
6	6-1	6	...	8	2	5	...	...	...	...	...	...	...
7	7-1	7	...	11	3	8	...	...	...	...	...	...	...
8	8-1	8	...	2	2	10	...	...	...	...	...	...	...
計				39	11	28							
				114	109								

◆8:45～

七尾市災害ボランティアセンターに到着し、ビブスを着用し、ホールでオリエンテーションを受ける。本日のボランティア総数は109名。対応ニーズ件数は18件。8グループと廃棄物の仮置き場に分かれて、説明を受け活動へと向かう。

各スタッフは、近畿ブロックの市町社協が対応。

# スケジュール(2日目②)

グループごとに、バリコム（携帯型トランシーバー）、トラック、ワゴンの割り当てがあり、資機材積み込み活動へ出発。お家や自治会館を訪問し、災害廃棄物を運び出し仮置き場へ



# スケジュール(2日目③)



- ◆ワゴン車やトラックの運転は、長期ボランティアの方が担当。
- ◆お昼の休憩は一度センターに戻り食事と水分補給。
- ◆当日は35度を超える蒸し暑い中での作業となった。
- ◆依頼者の方からは、先が見えない不安などをお話をされており、耳を傾けた。
- ◆仮置き場で受け取ってもらえるものか確認が必要で何度も本部に確認が必要だった。
- ◆壁には、様々な情報やメッセージが掲示されていた。

# スケジュール(2日目④)



◆14:30

おおむね活動が終了し、本部で、資機材や車両を返還し、活動報告を終える。

◆15:30

着替えなどを行い、全員バスに乗り込み帰路へ  
バスの中で、災害ボランティア講座の参加を呼び掛ける

◆19:40 ひまわり館到着 解散式

# 振り返って

◆被災された方にとっても、応援したいと駆けつけるボランティアの存在は大きいと感じた。

◆近畿ブロックの社協職員による、オリエンテーションやマッチング資機材管理が行われ、ボランティアセンター運営には、他の組織や地域の方の関りが見られなかった。近畿ブロック社協の応援は大変心強い。一方でニーズ把握やセンター運営に地元の方がかかわることで、地域に密着したニーズの掘り起こしや早い対応ができるのではないかと感じた。

◆センター運営には、多い時で150名程度のボランティアが入ることのできるセンターが必要。一方で今回は一か所での運営だったので、必要に応じて拠点が必要。マッチングの方法も工夫次第で変化できるのではないかと感じた。

◆ボランティア数の確保方法を検討しておく必要がある。

◆2時間から半日の時間が必要とされていた活動だったが30分で終了したものもあった。依頼されてから依頼者が片付けておられることもあり、時間や人数の見込みが難しい。

◆多くの一般ボランティア、職員で現地の活動に参加できたことは大きい。この経験を活かし、日々の地域福祉活動や災害ボランティアの体制づくりに取り組みたい。